

第1回 健康増進・自殺対策計画協議会 議事録

開催日時：令和5年2月21日（火） 18:30～19:30

開催場所：消防庁舎5階 会議室

参加者：○委員

中川会長（小樽商科大学） 柿木副会長（小樽市医師会）  
内田委員（石橋病院） 加藤委員（小樽市歯科医師会）  
伊藤委員（小樽薬剤師会） 川崎委員（小樽市北西部地域包括支援センター）  
山本委員（北海道中小企業家同友会 しりべし・小樽支部）  
佐藤憲司委員（小樽労働基準監督署） 吉岡委員（小樽市校長会）、  
浜島委員（代理坂井氏）（札幌方面小樽警察署）  
西野委員（小樽総連合町会） 吉川委員（民間保育協議会）  
上野委員（小樽食生活改善協議会）

以上 13 名

（欠席委員）：森委員（社会福祉協議会） 林委員（小樽市私立幼稚園連合会）  
小貫委員（小樽栄養士会） 佐藤和紀委員（市民委員）

○小樽市

保 健 所 所長 田中 宏之 次長 柴田 健治  
主幹 浮田 万由美 健康増進課長 柴田 隆治  
主査 鳥居塚 瑞江 主査 長谷川 綾  
栄養士 永井 美里  
保健師 五十嵐 彩乃 小堀 拓也

以上 9 名

議事録：

所長挨拶

新型コロナウイルス感染症の長引く影響で、両会議とも書面開催を余儀なくされた中、本日多くの委員にお集まりいただき合同開催できたことをまず感謝申し上げます。

小樽市においては、健康増進計画は、平成25年度からの10年計画（第2次にあたる）、自殺対策は、令和元年度からの5年計画で推進されてきたところ。

本日は、両計画の最終評価について御審議いただくことになる。次の計画へのステップとなるよう忌憚のない御意見を頂戴したい。

私達は心と体は切り離せないものだという事を、コロナ禍で再認識した。今後は、両対策において、心と体の健康増進を一体的に進めるため、一つの会議体となり、誰一人取り残されることのないよう、関係団体との一層の連携を深めながら、効果的に施策が推進されることを期待する。

(1) 議事 1 小樽市健康増進・自殺対策計画協議会 設置要綱(案)について	
事務局	資料(1)説明
委員	承認
事務局	委員17名中半数の12名(議事1の協議時点)の出席。要綱第6条第2項に基づき、会議開催の要件を満たしていることを報告する。
(2) 議事 2 会長・副会長の選出について	
	会長・副会長の自薦他薦なし。
事務局	事務局(案)として、会長に小樽商科大学 中川委員、副会長に小樽医師会 柿木委員を推薦する
委員	承認。
委員長	With コロナの中で健康増進・自殺対策は、社会生活の中でも大変重要な領域である。委員長としての重責もあるが、議事進行に当たっては皆様の御協力をお願いしたい。
(3) 議事 3 小樽市健康増進計画・自殺対策計画の統合について	
事務局	資料(2)説明
委員	意見・質問なし。承認。
(4) 議事 4 第2次健康おたる21健康づくりアンケート及び最終評価報告(案)について	
事務局	資料(3)①②、資料(4)①～④、資料(5)説明
副会長	糖尿病の年齢調整死亡率が「C」ということだったが、患者のみなさんを見ていると、コロナ禍にあって運動することができていない方が多く見受けられる。今後5類に落ちるとはいえ、なかなか生活習慣は変えられない。運動施策はどのように進めていくか。
事務局	ウォーキングサポーター養成講座、修了した方々への支援は引き続き継続したい。具体策はこれから皆様と相談しながら進めたい。
副会長	もう一点。健康寿命について。以前のデータは算出方法が国のもの異なり、介護のデータを用いたとの説明があったと記憶。国の健康寿命とは乖離があった。今回のデータは国の基準にのっとったものか。

事務局 国からは3種類の方法が示されている。①日常生活に制限のない期間の平均、②自分は健康であると自覚している期間の平均 ①②は国民生活基礎調査といって3年に1回実施している調査から取得。この調査では小樽市のデータが取得できない。このため小樽市としては既存データを用いる方法を採用。介護データを用い要介護2～5の方を不健康とし算出する方法を用いている。今回もこの方法を用いている。

委員 食生活改善協議会は、生活習慣病予防ということで食生活の指導や野菜摂取量について力を入れて活動している。この2年間はできていなかった。自分たちの活動だけではあまりにも力が及ばない、と感じている。最近も新しくできた市内飲食店を利用。最初の1口、2口は良かったが、食べているうちにどんどん塩分がきつく感じ、半分くらいしか食べられなかった。市内のレストランや喫茶店に「塩分を控えた食事を」といった要請を保健所から出していただけないか。

事務局 啓発を強化する部分と考えている。食事に限らず、運動・休養等の面でもどこに啓発するのかを関係団体と連携して進めたい。具体的には企業を通して関係の顧客に普及啓発していただくなどの方法があると思う。具体的にはこれから検討したい。

委員 承認。

(5) 議事5 小樽市自殺対策計画最終評価(案)報告について

事務局 資料(6)(7)説明

委員 一般的にコロナ禍で自殺数が増えていると言われているが、小樽では2020年にやや増加し21年減っている。これはどういう理由だと分析しているか。

事務局 こちらについては、実は担当者も様々分析をしたが明確な理由は不明。ただ、減少しているというところでは良かったと考える。国の資料では、令和2年が国全体でも増加、令和3年が若干減少した。国の傾向と似ているという受けとめをしている。新型コロナウイルス感染症が落ちついて、これから色々な活動が再開するにつれて、また増えるのではないかとされているので、これまで通り施策を進める。

委員 本市は、全国・北海道に比べて女性の自殺者が多いが、この理由は。

事務局 事務局としても、明確な理由が見えていない実情。このデータだけで分析する事も限界があり、国保の状況や生保の自給率など様々なデータを加味して検討する必要がある。これといったデータをお示しできない。

委員	このデータの根拠は何か。警察庁のものか、市独自調査か。
事務局	警察庁と厚生労働省が出しているものがあるが、本市では厚生労働省が出している「地域における自殺の基礎資料」という統計があり、そちらをもとに評価した。
委員	例えば、生活保護受給者が自殺した等場合に、背景の調査はあるのか。
事務局	個人情報の関係があり、死亡した理由について把握することはできるが、保健所は情報を入手する権限がないので、そこについては踏み込めていない。
委員	承認。

(6) 議事 6 次期健康増進・自殺対策計画(案)について

事務局	資料(8)(9)説明
委員	意見質問なし。承認。
委員長	これで全ての議事を終了する。
事務局	本日議事録後日送付する。承認後ホームページに掲載。計画の素案は、令和5年度夏頃に提示予定。